



今年度1回目の授業研究会を行いました

6月3日(木)5校時目、秋田県教育庁南教育事務所仙北出張所と仙北市教育委員会北浦教育文化研究所の指導主事の方々をお迎えし、本校にとっては今年度初の授業研究会を開催しました。

今回、授業を公開してくれたのは、1年B組の理科でした。全教職員で参観し、生徒一人一人が「わかる・できる・いかす」を実感できる授業の進め方を、私たち教職員も学び合いました。本校では、今年度、全教科の授業をとおして、次のような生徒の育成を目指して研究を進めています。

- ①学習課題を自分のものとして受け止め、主体的に学んでいく生徒
- ②他者の考えに触れながら、伝え合ったり議論したりしながら対話的に学んでいく生徒
- ③「わかる・できる」ことを自分の言葉で表現し、学びを「いかす」広げ深められる生徒

1年B組の理科の授業は、「身のまわりの物質とその性質」についての学習で、種類の違う3種類の金属の密度を求める実験をとおして、実験結果から金属の種類を特定し、そのことを自分の言葉で表現できるようになるという、ねらいどおりの生徒の姿が見られた1時間となりました。

指導主事の方々からも、「生徒が非常に落ち着いていて、学習に対する基本姿勢や取組ができており、この後、更に成長していく姿を予感させる『ドキドキ、わくわく』する授業だった」、「男女混合のグループでも意見の交流が活発であり、全体の前で発表する場面でも、聞く側が話し手をしっかりと見ることや、発表者も聞き手を意識し最後までしっかりと話す・伝えることができていた」という言葉をいただきました。1年B組のみなさん、ありがとうございました！

また、本校では今年度も、全学年の数学、英語、理科の時間に、複数の教員が指導を担当するティーム・ティーチングにも取り組んでいます。複数の教員が役割を分担しながら、生徒個々の興味・関心、習熟度に応じた指導を行うことにより、各教科の基礎的・基本的な内容の確実な習得を図ることと、生徒一人一人の考えを丁寧に取り上げながら、主体的に対話的な学びを生かした深い学びにつなげることを目指しています。生徒からも「すぐ近くに先生がいるので気楽に質問しやすい」、「分からなくなった時にすぐ教えてもらえるので、家庭学習で分からないことが減った」など好評です。

聖火リレーを応援しました

6月8日(火)、東京オリンピック聖火リレーが、桜並木駐車場をスタート・ゴールとし、武家屋敷通り周辺を一周するコースで行われました。本校からは、サポートランナーとして、F.Sさん(3年)とS.Rさん(3年)が参加し、聖火ランナーを支えました。また、桜並木駐車場付近の沿道で、密にならないように注意しながら、希望した133名の生徒が応援をしました。

コロナ禍で、オリンピックの開催については、はっきりと決まっていない状況での聖火リレー応援でしたが、地域に貢献でき、地域の方々からの「角中があってよかった」につながる活動となりました。

体力を鍛える取組①(5分間走)

本校では、今年度も火・木曜日の帰りの会終了後、生徒の体力を鍛えるための取組として「5分間走」を継続して行っています。

全国的に、子どもたちの健康に関する課題の一つとして、「日常的に運動する子どもと、そうでない子どもの二極化傾向が見られること」があげられています。

本校でも、運動部や運動に関係したクラブ等に所属している生徒と、そうでない生徒の運動習慣には、当然のことながら大きな違いが見られます。限られた時間ですが、今は普段なかなか運動することができていない生徒たちにも、自分自身の心身の健康のために、生涯にわたって運動に親しみ継続できるようになってほしいという願いを込めた活動が「5分間走」なのです。

また、人間の発育・発達の特徴として、心臓や肺などの呼吸・循環器系の働きが一番高まるのは、一般的に11・12歳くらいから15・16歳くらいまでと言われています。まさに、中学生の時期です。この時期に、心臓や肺に刺激を与える運動を行えば、持久力(運動を長く続ける力・スタミナ)が一番高められるということは、科学的にも証明されています。だからこそ「5分間走」なのです。

走ることが苦手な人にとっては、楽しい活動ではないと思いますが、自分のペースで自分と対話をしながら5分間走り続けることで、持久力はもちろん、心力も鍛えられていると思います。また、走ることが嫌いな人でも、仲間と一緒にだからこそできるのが「5分間走」なのです。

そして、「5分間走」の取組の成果を確認するのが、体育の時間の「8の字走」です。一人一人が一回一回、自分なりの目標タイムをはっきりと持って挑戦することで、自分では気がつかないうちに、体力と心力が鍛えられています。